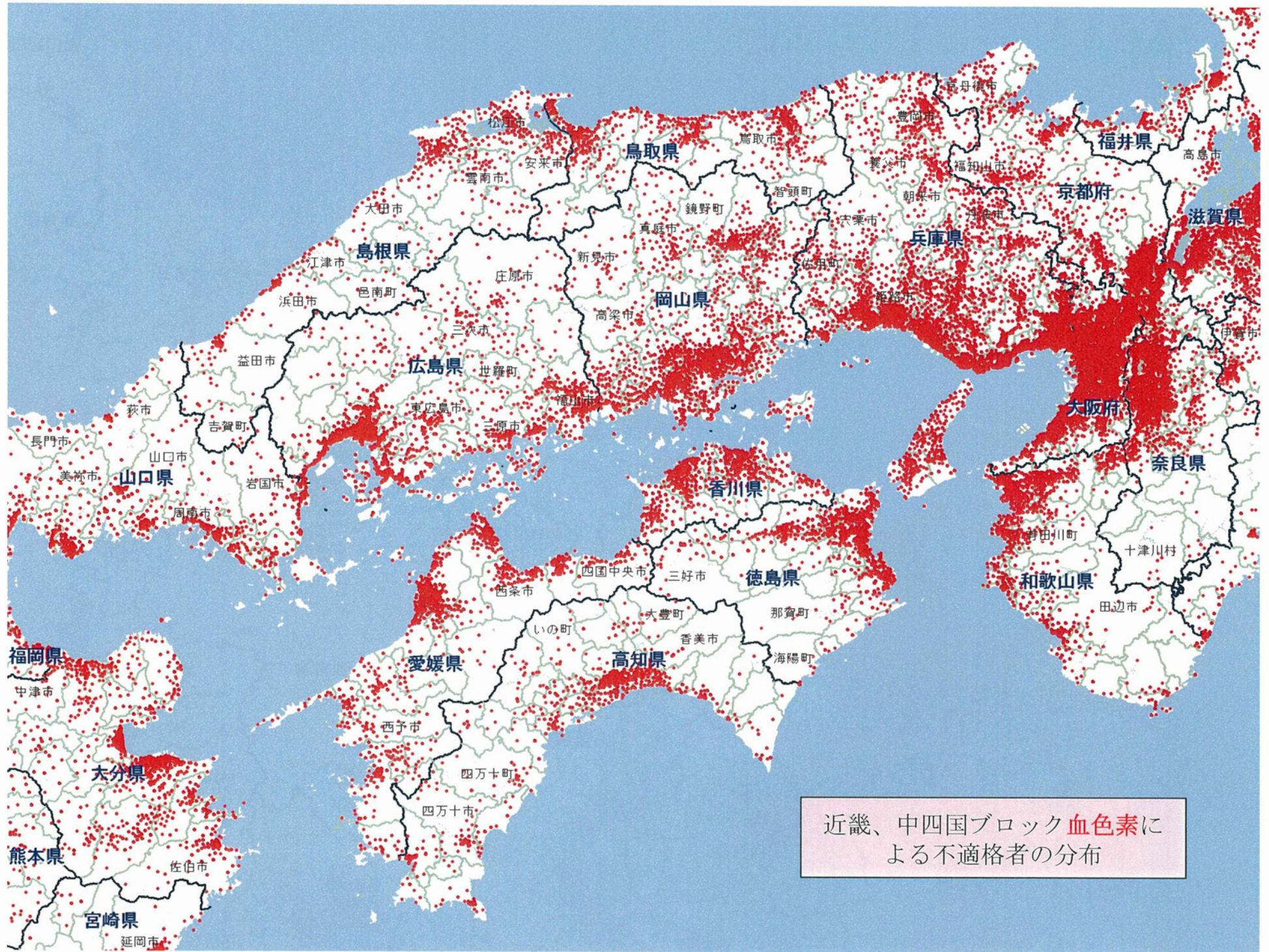
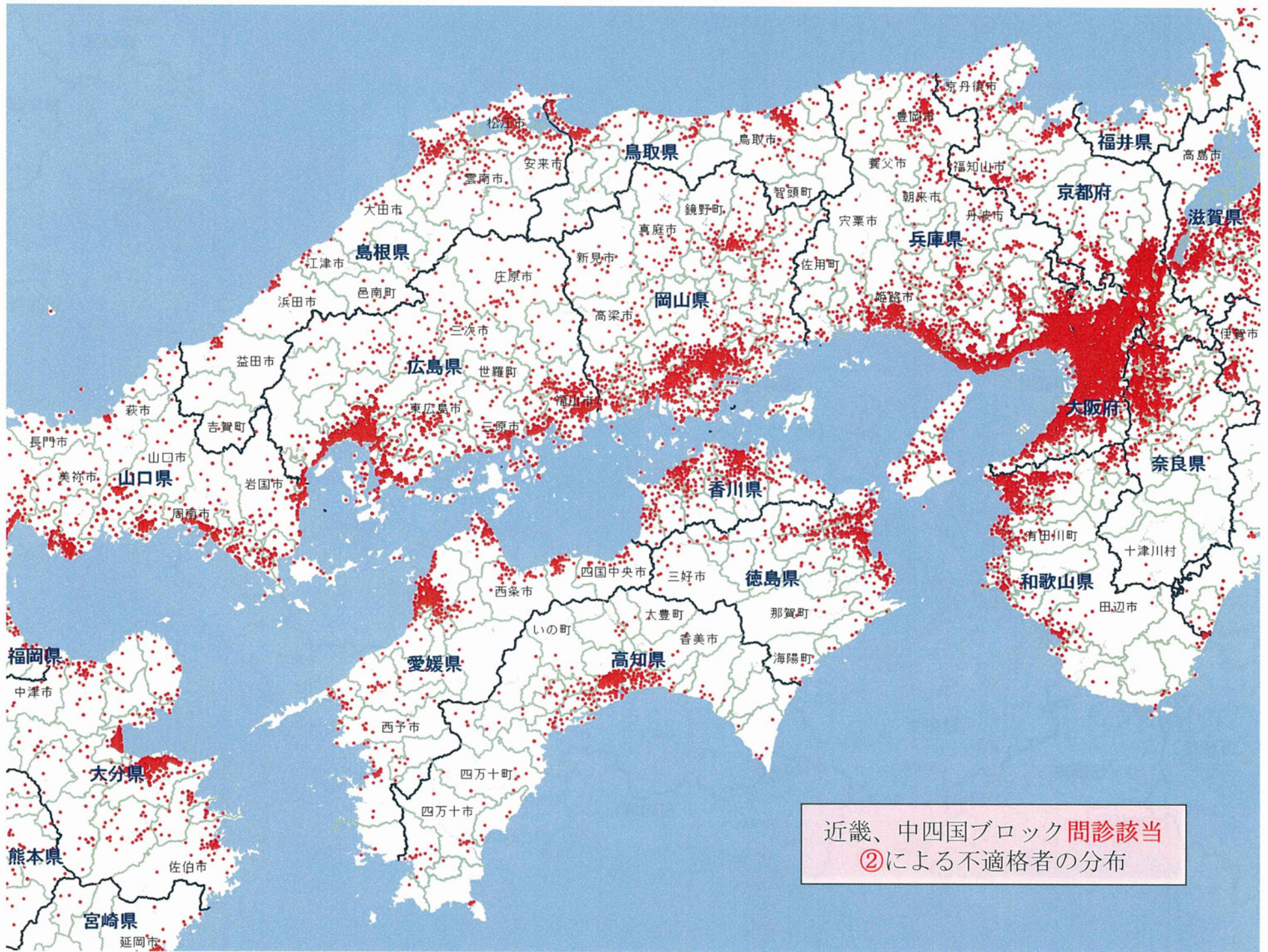


東海北陸ブロック問診該当②による不適格者の分布

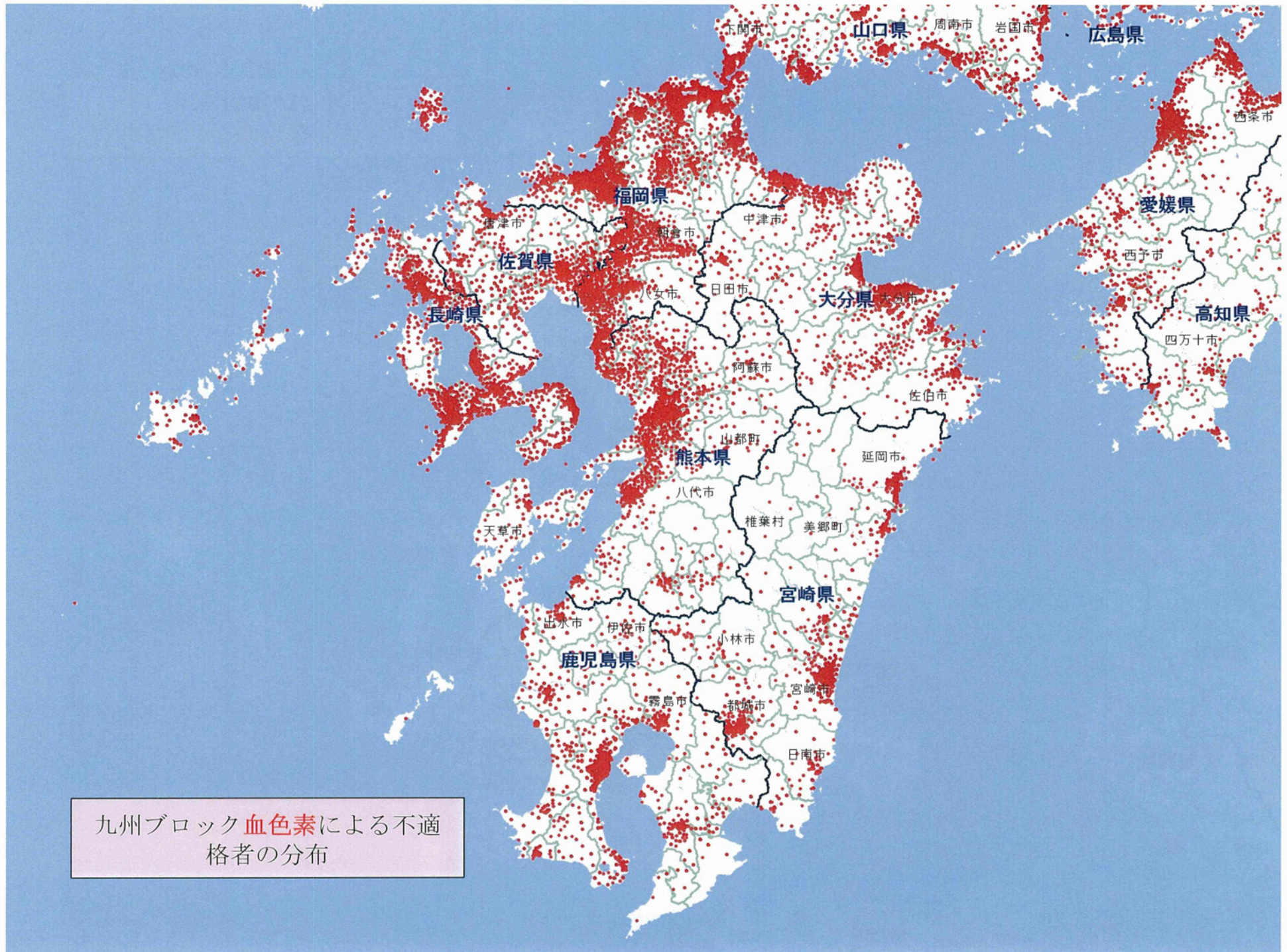


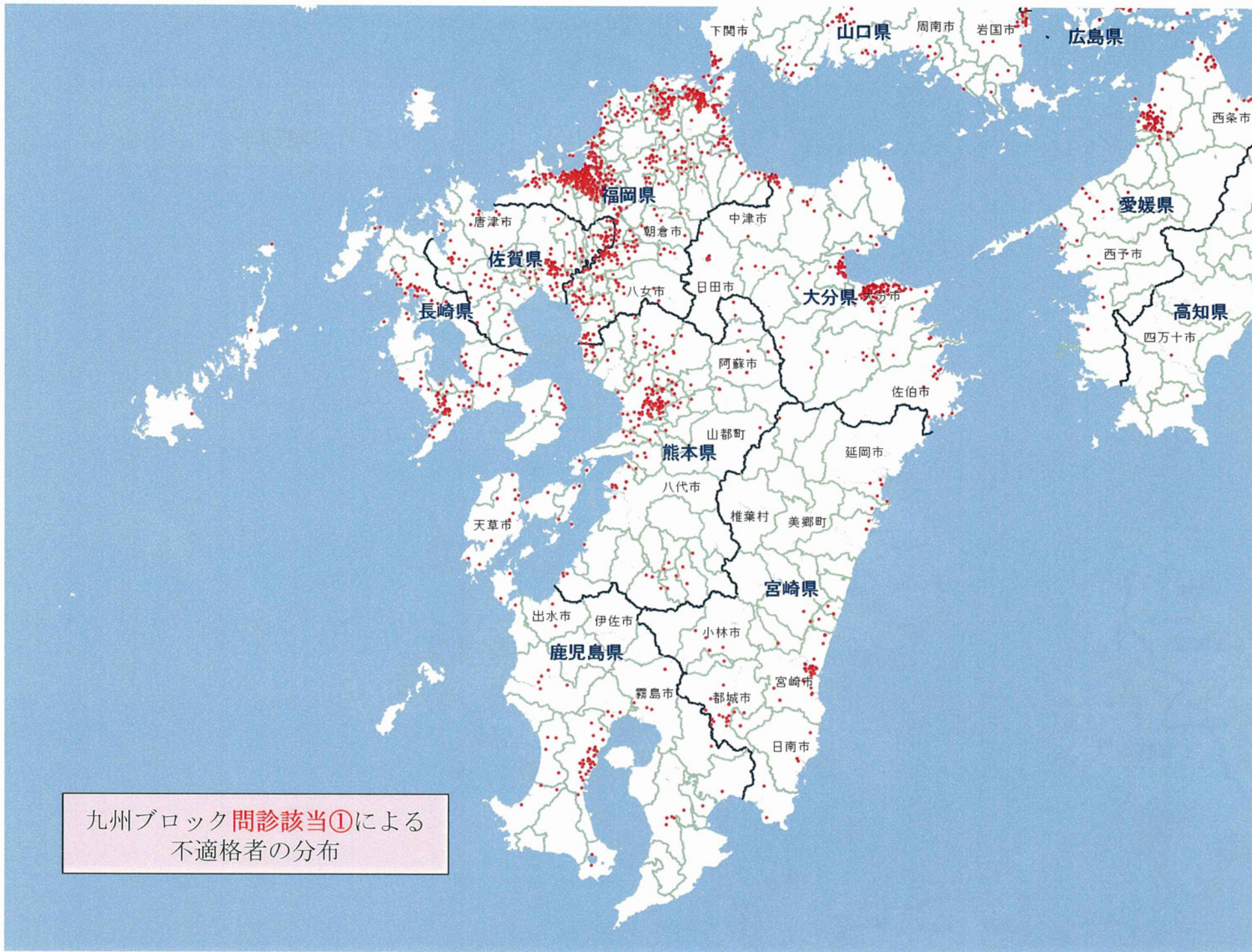
近畿、中四国ブロック**血色素**による不適合者の分布



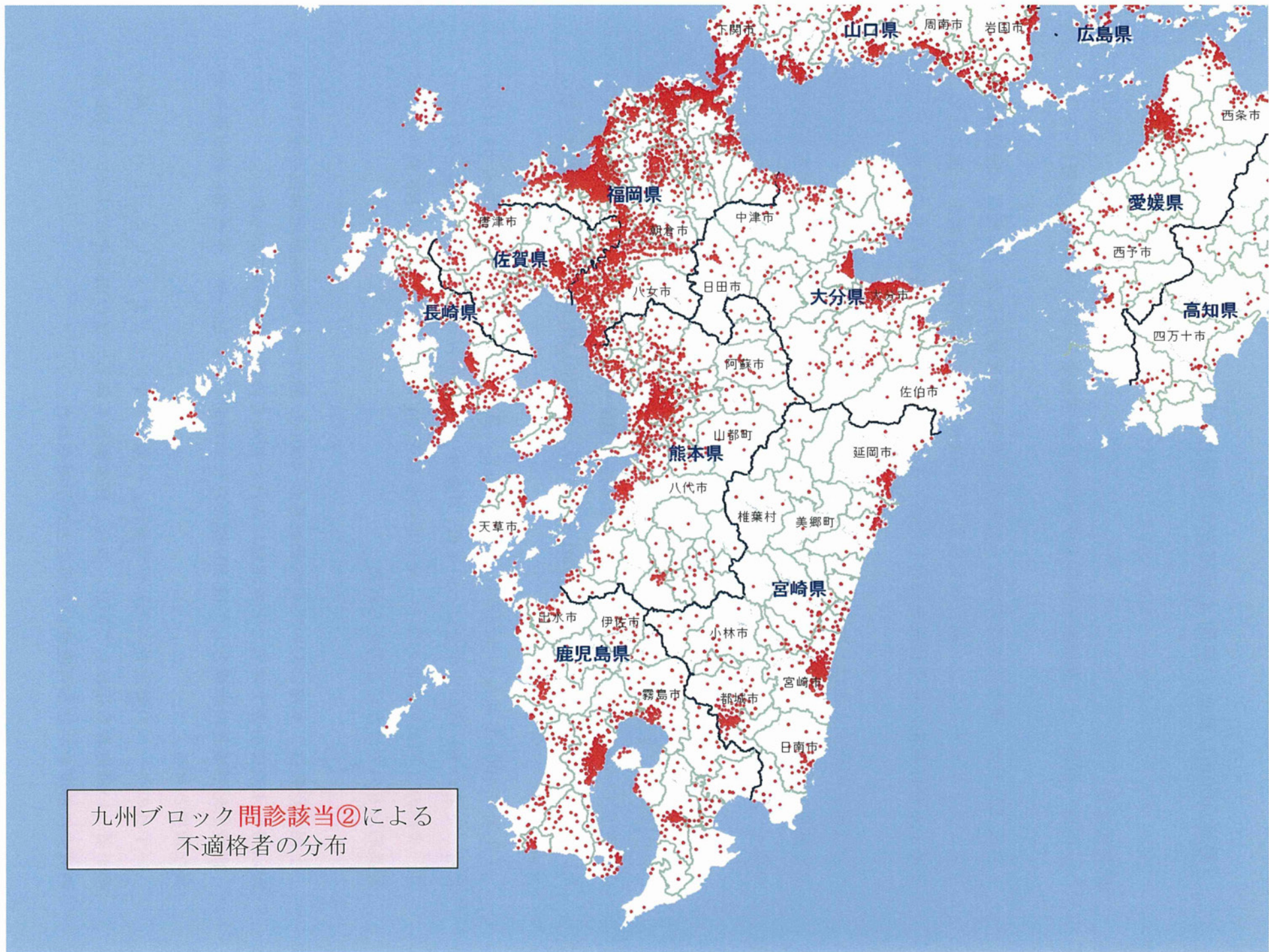


近畿、中四国ブロック問診該当
②による不適格者の分布





九州ブロック問診該当①による
不適格者の分布



九州ブロック問診該当②による
不適格者の分布

「男性 400mL 献血の年間 4 回実施の可能性に関する研究」のレビュー

研究代表者

河原 和夫 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 政策科学分野)

平成 22 年度 研究代表者等が行った厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）で 400mL 献血の年間採血回数を 4 回にすることによる有害事象の発生状況を検討したが、そのレビューした結果を以下に示す。

当該研究の研究方法は、男性献血者で平成 19 年度に 400mL 献血を 3 回行い、かつ 3 回目の献血のあと、その他の献血を 84 日以内に行った者の Hb 値の変化を検討するものであった。

その結果、1 年間に 400mL 献血を 3 回行った者の Hb 値の変化量については、平均では 2 回目で 1 回目よりわずかに減少しているが、3 回目は 1、2 回目より僅かであるが Hb 値は回復していた。平均値の変化は小幅であるが、Hb の増減が著しい者が一部存在していた。特に次年度に入って 4 回の 400mL 献血を行った場合、Hb 値が減少する者が過半数を占めていた。

1 年間に 400mL 献血を 3 回行い、かつ 3 回目の献血のあと、その他の献血を 84 日以内に行った者の Hb 値の変化量については、対象者 11 名の何れの者も増減の変動を有しており、今回の 3 回目の献血のあと、その他の献血を 84 日以内に行った者の Hb 値の変化が特異的なものではないと考えられた。

上記の研究は、本邦において男性献血者の 400mL 献血の年間可能献血回数を現行の 3 回以内を 4 回に引き上げることを視野に入れた初めての予備的研究であった。

血液生化学検査の指標としては Hb 値のみしか検討していないが、また Hb 値が最も重要な指標となる。

いずれのケースの献血者の Hb 平均値は、小幅の減少にとどまっている。しかし、減少率が著しい献血者も存在していた。また、採血間隔もある一定の期間を設けないと Hb 値の減少に拍車をかける可能性があることが示唆された。

400mL の献血可能回数を年 4 回に変更する場合は、大幅に Hb 値が減少する献血者にも配慮しなければならない。特に、Hb 値が採血可能ラインである 12.5g/dL を僅かに超えている献血者には注意を払う必要があることなどの成果が得られた。

論点

この研究の問題としては、既に指摘したところであるが、血液生化学検査の指標として Hb 値のみしか検討していないことである。

Hb 値と体重や身長、循環血液量などの身体所見を併せて研究デザインを組み立てていく必要がある。その際、研究成果によっては、現行の年間献血回数を増やすどころか逆に減らさなければならないこともありうる。採血量も同様のことが言える。

献血者の健康保護と採血基準の変更は、一体化して考えていかねばならない。